

特集 ゴム・樹脂コンベヤベルト

プーリ好調 前期比3割増収

JRC

ベルトコンベヤ部品メーカー、JRCの19年2月期売上高は前期比約20%の大幅増収見込み。大型案件が多く案件あたりの売上高が大きかったこと、また小口案件も多く受注できたことで大幅増収となった。

受注増に寄与しているのが、5年前から取り組んでいるソリューションビジネスの浸透。同社では2014年にソリューション推進部を設置し、ベルトコンベヤのソリューションプロバイ

ダーとしてユーザーのさまざまな要望に応え、受注獲得につなげている。

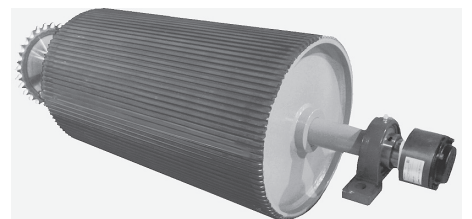
また同社が力を入れている、「現場の安全対策・環境対策への製品提案が、ユーザーニーズとマッチしたことも受注拡大につながった」（同社）。

前期は特にプーリの販売が好調で前期比3割増収と大きく伸びた。プーリ専門工場である北関東工場（埼玉県）もフル稼働状況で、設備更新や人員増強により生産性向上に努めている。またプーリを中心に製造する九州工場（鹿児島県）でも小型・中型プーリの生産を増やしている。

主力のローラや新製品のベルトクリーナーも販売好調だった。

今期業績は前期比微増収の計画。引き続きソリューションビジネスに力を入れていく。

同社では、2年前から新事業の立ち上げに取り組み始め、昨年「ロボット・SL事業部」「メディカル・LA事業部」からなる「ALFIS（アルフィス）」を立ち上げた。同事業は、JRCが持つ工場生産設備自動化のノウハウを生かしたロボットによるシステムインテグレーションを事業化したもので、「ロボット・SL」では工場の生産工程を、「メディカル・LA」では、ライフサイエンス研究設備の自動化を提案していく。



ドライブプーリ

また本社工場（兵庫県南あわじ市）のスマート化を進めるとともに、売上拡大・事業拡大に伴い増加する物流増に対応するため、埼玉県本庄市に東部物流センターを、兵庫県小野市に西部物流センターを新設した。今後は東西2大物流拠点を中心に効率的な搬送体制を構築していく。東部物流センターは1月に稼働を開始しており、西部物流センターは4月に稼働する予定。